



●あけましておめでとうございます。新しい年がスタートしました。

① 御所沼の水抜きと護岸の補修が実施されます。



御所沼(水抜き前)



(水抜き後)

『御所沼の水抜き』が1月4日から始まりました。「なぜ水抜きをする必要があるの?」と疑問を抱く人もいるかと思いますが。その理由は、「沼の水質浄化と護岸の補修を目的」に実施しています。年一回、溜まっていた水を抜き、かわりにきれいな井戸水を補充します。そうすることで過剰に栄養素を含んだ水を排出し、池の底を空気にさらすことで微生物による分解をうながし水質が浄化する効果があると考えられているからです。

来園者や多くの水鳥たちが憩える「御所沼」を少しでも良い環境を維持出来るよう目指しています。



② 皆さんおなじみ『カルガモ親子のお引越』

「今の時期の見所は何ですか?」とよく聞かれます。冬の公園は花や葉などが少なくなる時期です。それならではの違った楽しみ方をご紹介します。花や葉がないからこそ、見通しがきき、「野鳥の観察」にはうってつけです。林や水辺の鳥の観察を楽しんでみてはいかがでしょうか。



★皆さんおなじみの「カモ科のカルガモ」黄色い口ばしが特徴です。この鳥はオスもメスも同じ色をしています。こちらは留鳥なので一年中見ることができます。

③ 刈り取った草や落葉、木々のその後は?

刈り取った草を、落ち葉などと一緒にまとめて溜めておくと、時が立つと腐葉土となります。そこがカブトムシなどの発生地にもなります。廃棄物ではなく、森の大切な資源としてリサイクルしています。他にも枯れ枝などを細かくチップにし、園路に敷くなど再活用しています。

④ 公方様の森・・・美しい姿に変身中

日本の自然林を活かした雑木林を維持するために、ササ刈りを行っています。ササの草丈が低くなると、地表面近くまで光が届くようになり、小さな植物も生き残り、開花・結実することができます。刈られて背丈が抑えられた植物も同様に開花・結実することが出来ます。このような手入れをすることで、その環境の変化によって、より多くの種類の植物が生育できるようになります。

長い年月をかけて、多様な生物・植物が入れ替わる風景を「公方様の森」で鑑賞してみてもいいのではないでしょうか。



ササ(刈り取り前)



枯れ枝を細かくチップ状に



ササ(刈り取り後)



●ますます寒くなっていますが、てくてく情報、次号もお楽しみに!

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河総合公園 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣 399-1 電話 0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●静かな公園で、てくてく探してみよう。

暦の上では春の2月。まだまだ寒く少し寂しい公園ですが、この時期だからこそ、見られるものがあります。てくてく観察してみてください。

○この時期に貴重な花、ロウバイ

・半透明の蟬細工のような花弁が特徴のロウバイは、この時期に公園内で見られる数少ない花です。



ロウバイ

目立つところだと民家園内の①にあります。日当たりが良いため開花が早く、その分早く散ってしまいます。そんな時は、茶畑の南側②へ。ここのロウバイは比較的長く咲いていますよ。

○公園で感じる、古河の歴史

・民家園を出てすぐ西に建てられた「③古河公方館跡」の碑。1455年に古河へ移り、古河公方と呼ばれた足利成氏とその子孫が、御座所、別荘として使った館の跡地で、県の指定史跡となっています。「公方様の森」や「御所沼」といった名称も、この館があったからこそですね。◎案内板や囲いが古くなっていましたが、古河ライオンズクラブさんからの寄付により、石材の立派なものに生まれ変わりました。



古河公方館跡



クマザサ

○笹にもいろいろあるけれど

・園内各所にある笹ですが、この時期に見てほしいのはクマザサです。通常は全体が緑ですが、越冬する時だけ写真のように枯れて縁取られます。これが歌舞伎の化粧「隈（くま）取り」に似ていることから「隈笹」と名がついたそうです。茶畑から南西の⑥や雪華園の辺りで見られます。

○いろんな花芽や冬芽を観察

・⑥の愛宕川石碑の近くにあるネコヤナギは、茶色の殻（芽鱗）から、猫のしっぽのようなふわふわの花芽が顔を出します。



コブシ

・⑦のこぶし野他、中山台などにあるコブシは、3月頃になると綺麗な花を咲かせますが、冬の間は、ふわふわの芽鱗に覆われて、春を待っています。その他にも、トチノキの様に樹液で冬芽を乾燥から防ぐものなどもあり、植物のたくましさを感じますね。



ネコヤナギ

●早春の楽しみ
梅はもうすぐ開花です

■昨年植樹して復活した④梅林では、つぼみがたくさん。まだまだ若くて小さな木ですが、立派な梅林になるように経過観察中です。



紅梅

●森で見つかる、こんな跡

・犬や狸とは違い、五本指がくっきり出ていることが特徴のこの足跡は、アライグマのもので。近年野生化して農作物や生態系への被害が拡大しています。昨年公園でもサギが食べられるなどの被害があり、一匹捕獲しました。見た目はかわいいですが、狂暴な性格なのでご注意ください。



・目線を上に向けると、木の幹がこの様な状態に。キツツキの仲間のアカゲラなどが突いた跡なんですよ。

●花は少なくとも発見はたくさんあります。調べてみると楽しいですよ。てくてく情報、次号もお楽しみに！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●花桃、桜など、春の花をご紹介します

春を迎え、公園は一年で一番華やかな時期を迎えます。花桃、桜を中心に、春の花スポットをご紹介します。

○公園の代名詞、約1500本の「花桃」

●全体の約八割を占める「矢口」が3月下旬、同時期に「寒白」、4月上旬に「源平」「寿星桃」、4月中旬の「菊桃」の順に見頃を迎えます。花桃は桜と違って花弁は散らずに色褪せていく感じですので、比較的長く楽しめます。



○春といえば、やっぱり「桜」

●花桃だけでなく、桜も見事です。お馴染みの「ソメイヨシノ」は駐車場や管理棟前、芝生広場西側等にたくさん。また是非公園南エリアにもてくてく足を運んでください。数は多くありませんが、早咲きのカンヒザクラやヒガンザクラ、花と葉が同時に開くヤマザクラなども見られます。



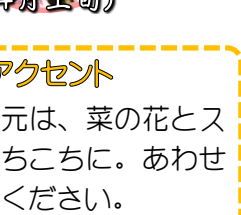
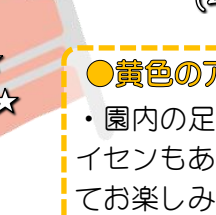
△源平 (紅白の花) (Genpei (Red and White flowers))



●濃いピンクの黒川矢口
・矢口よりも色の濃いものは黒川矢口という種類です。

○意外な花にもご注目

●一般的に花を楽しむものではありませんが、シダレヤナギとイロハモミジもこの時期に花をつけます。遠目からではわかりませんので、近くで確かめてみてください。園内の各所にあります。



●黄色のアクセント

・園内の足元は、菜の花とスイセンもあちこちに。あわせてお楽しみください。



●花の場所は大体の目安です。印の場所以外にもありますので、てくてく探してみてください。

○園内を彩るたくさんのお花

●春の公園は、その他の樹木、草花もたくさん花を咲かせます。桃林から徳源院跡への園路沿いには、白い釣り鐘型の花がかわいいスノーフレックがたくさん。白い花が見事なコブシは、中山台ほか園内に多くあります。



●民家園にもぜひお立ち寄り。周りを囲むピンクの乙女椿は、椿の種類でも特にかわいらしい花をつけます。またここには、桜と同じバラ科サクラ属のスモモがとても綺麗に咲きますよ。



●あざやかな花に囲まれ、心地よい春の公園。てくてく歩いて春を感じてください！

●春うらら、散策が気持ちいい季節です

桃まつりの賑やかさもひと段落、ハナモモもサクラももう終わりですが、あざやかな新緑、草花に心も躍りますね。

○藤棚や野生のものなどたくさん

●綺麗な紫の花を咲かせる①フジ。定番の藤棚は公園内にもいくつかベンチの日よけを兼ねて設置されています。他にも野生のものが公方様の森などにいくつかありますのでマップを見ながら探してみてください。



①フジ

○薄紅色の～・・・ハナミズキ

●近年は歌でお馴染みの②ハナミズキ。公園では白のものが中山台で咲きます。実はこの花弁に見える部分は、総苞と言って葉が花全体を包むように変形したものなんです。ちなみに薄紅色のものは、孔雀小屋前の小さな池の裏に咲きます。



②ハナミズキ



○えっ？これが桜！？

●桜と言えばソメイヨシノが有名ですが、ウワミズザクラとイヌザクラをご存知ですか。

どちらも高木で、花は白いブラシ状の花序（花の集まり）を付けます。とてもよく似ていますが、見分け方は、花序が付く枝に葉も付くのがウワミズザクラです。ソメイヨシノとは見た目が全く異なりますが、同じバラ科サクラ属の植物です。高い位置に咲くので、見上げて探してください。



③ウワミズザクラ



④イヌザクラ



- ①フジ
- ②ハナミズキ
- ③ウワミズザクラ
- ④イヌザクラ
- ⑤ハナカイドウ
- ⑥ハナズオウ
- ⑦ブランコの木
- ⑧春草席

●中山台のブランコの木

・垂れ下がったツルが子供たちの格好の遊び場となっている公園の名物木⑦「ブランコの木」もフジです。

樹齢は不明ですが、昭和50年の開園当初からすでに自生していたそうですよ。



○民家園にはこんな花



⑤ハナカイドウ



⑥ハナズオウ

●数は多くないものの、いろいろな花が咲く民家園ではピンクの⑥ハナカイドウがお出迎え。原産地の中国ではその花の美しさから、楊貴妃の眠る姿になぞらえて、美人の例えに使われるそうですよ。公園内に1本のみの⑥ハナズオウは、枝から直接花が咲き、花の後にハート形の葉、豆果を付けるちょっと変わった樹木です。



⑧春草席

○春草席で一息

●民家園を出て、公方様の森を右手に下っていくと、朱子の七言絶句「偶成」からとって名付けられた休憩所⑧春草席が見えてきます。周辺の懐かしい景色と、モダンな展望デッキのとりあわせを楽しみながら、一息つきましょう。

○ほかにも花や野草いろいろ



ヤマブキ

●春の季語にもなっているヤマブキは園内のあちらこちらで鮮やかな黄色が目に残ります。

子供のころ良く遊んだペンペン草。

正式名称は「ナズナ」で春の七草であることは、意外と皆さん知らないかもしれませんね。



ナズナ

●春の公園は何気ない景色の中にたくさん発見があります。てくてく探してみましよう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●緑が眩しく、草木が元気いっぱい

植物が元気なこの季節は、昆虫や鳥などの生き物たちも活発になってきます。てくてく探してみましょう。

○花が終わって実をつけます

●春に花を咲かせた樹木が実をつけて、その実がだんだん赤く色づいていきます。4月号で紹介したウワミズザクラもその一つ。低木のウグイスカグラやニワトコ、ナツグミなどは観察しやすいですよ。



①ウワミズザクラ



②ウグイスカグラ



③ニワトコ



④ナツグミ



⑤カワラナデシコ

○あざやかな野草いろいろ

●この時期、園内に目立った花は少ないですが、そんなときは足元の野草に目を向けてみましょう。

⑥の野草園には可憐なカワラナデシコがひっそりと咲いています。数が少なくなっている植物なので、もし見つけても摘んだりせずに、そのまま・・・シロツメクサに比べて草丈、葉が長く紫の花をつけるムラサキツメクサや、同じ色合いのノアザミもあざやかです。



ノアザミ



ムラサキツメクサ

○耳をすませば・・・

●元気なのは植物だけではなく、⑥公方様の森で耳をすませば、野鳥の声がたくさん聞こえます。この時期、巣作りのため、オスが縄張り争いをしているんです。姿はなかなか見られませんが、鳴き声をよく聞いて、何の鳥か想像してみましょう。よく聞く野鳥を紹介します。

①「ホーホケキョ」でおなじみのウグイス。簡単ですね。②けたたましく「ケーン、ケーン」と鳴くのはキジ。古い自転車のブレーキ音にも似ていますね（笑）他の鳥に比べ大型で草地に生息し、地上を歩くため比較的よく見かけます。③高音で「ツピー、ツピー」と響き渡るのはシジュウカラ。癒やされる鳴き声です。④「ギョギョシ、ギョギョシ」と忙しく鳴いているのはヨシキリ科の鳥です。



ウグイス



キジ



シジュウカラ

●それってほんとに「トカゲ」?

・庭先などでも見かけるトカゲ。よく見る灰褐色でザラザラした感じのものは、「ニホンカナヘビ」と言います。

カナヘビよりもテカテカと光沢があって、しっばにかけて青みがかっているのが「ニホントカゲ」です。管理棟周辺の茂みでも見かけますよ。見たことがない人はぜひ探してみたいはいかがですか?



ニホントカゲ

○大賀ハスもいよいよです!

●6月の開花を控え、⑦ハス池に葉がたくさん増えてきました。日々観察して、開花日を予想するのも楽しいですよ。ズバリ私の予想は6月10日!今年もキレイに咲いてくれるといいですね。



●てくてくお散歩しながら、木々の緑や野鳥の声で心も体もリフレッシュしませんか!

●季節は梅雨、そして夏へ向かって・・・

ジメジメとして蒸し暑い季節がやってきましたが、雨の恵みを受けて、植物も成長していきます。

○雨に染まる、あざやかな紫陽花（アジサイ）



ガクアジサイ

●梅雨の時期に思い浮かぶのは、やはりアジサイですね。園内のあちこちにありますが、旧正門から中山台方向に向かってたくさん咲いています。一般的にアジサイと呼ばれるものの原種がガクアジサイです。

土壌の酸性度によって、青から赤まで色が変化しますがリトマス試験紙とは逆で、酸性が青くなるそうですよ。



①アジサイ



②大賀ハス

○可憐で美しい大輪の大賀ハス

●公園の夏の風物詩、大賀ハス。1950年、千葉市で約二千年前の地層から発掘、発芽したため、「古代ハス」とも呼ばれますが、発掘した大賀一郎博士から、大賀ハスと名付けられました。



現在、3000㎡のハス池一面に咲くたくさんのハスは、1975年に千葉市からいただいた2本の根から増えたものなんです。

【鑑賞のポイント】お昼には概ね閉じてしまうので、9時頃までに見るのがオススメです。



○この時期に咲く野草

●湿地に生えるハンゲショウ。公園では鯉池の中に植栽しています。白い花に見える部分は葉で、この時期に半分だけ白くなるため「半化粧」の名がついたという説と「半夏生」（＝黄経100度の点を太陽が通過する日）に花が咲くことからその名がついた説もあります。



ハンゲショウ



オカトラノオ

●丘陵地に咲く「虎の尾」ことオカトラノオ。小さな花が綺麗です。野草園などを探して見ましょう。湿地に生育するヌマトラノオという種類もあります。

●ハスの花の寿命は4日間

・1日目はとっくり型、2日目はお椀型に満開、3日目は色があせてきて閉じて半開のまま、4日目には散ってしまいます。残った中心の花托が成長して大きくなり、たくさんの実をつけ、茶褐色の果托となります。採取して乾燥させた果托は、管理棟にて1つ50円で販売しています。ちりめんやビー玉などを詰めたり、アレンジ次第でインテリアとしても楽しめますよ。



○ハスと一緒に楽しめるヘメロカリス

●ハス池の隣には、あざやかな黄色のヘメロカリスがたくさん。花が1日でしぼんでしまうことから、ギリシャ語の「ヘメロ＝1日」「カリス＝美」が名前の由来となったそうですが、1つの花茎からたくさんの花を咲かせるので、長い期間楽しめます。野生種であるニッコウキスゲやヤブカンゾウと同じ仲間ですが、ヘメロカリスは園芸種でその種類も多種多様です。



③ヘメロカリス

●この実なんの実？

・花が終わったあとの樹木で、この時期に実を付けるフジとコブシ。フジはマメ科なので、実もそれっぽいですね。コブシの実は、名前の由来にもなっているように、握りこぶしに似てるんですよ。



⑥フジの実



⑤コブシの実

●貴重な梅雨の晴れ間は、のんびりてくてく公園散歩でリフレッシュしましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●梅雨が明けると、季節は夏へ

雨の恵みを受けて、草木もしっかり水分補給完了。晴れの日も増えてきますので、園内散策と行きましょう！

○大賀ハスが最盛期から徐々に・・・

●7月中旬ごろ最盛期を迎える大賀ハス。8月上旬までは花を見ることができますが、徐々に花よりも花托が目立つようになってきます。

4日目に花弁が散った後、残った中心の花托が大きくなって実をつけ、その後枯れていきます。



①大賀ハス



【おねがい】花托を含む園内の草花、果実等の採取は条例で禁止されています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



②スイレン

○ハス以外の水生植物

●水生植物の代表といえば、スイレン。改良により、その品種は様々なため、総称してスイレンと呼ばれます。ハス池と鯉池の間を流れる③十念寺川を覗くと、水面に浮かぶのは楕円の葉っぱヒルムシロ。ムシロ（筵）とは、もともとゴザなど敷物のことで、葉をヒルの筵に例えてその名がついたそうです。綺麗ではありませんが、つくしのような花穂が顔を出しています。



③ヒルムシロ

●神様の使い！？「ハグロトンボ」

・この時期、園内の林の中で見かけるハグロトンボ。平地や低山地で植物が茂り、緩やかな流れのある水辺に生息していますが、羽化したては薄暗い林の中で過ごすそうです。トンボのような直線的で素早い動きではなく、蝶のようにヒラヒラと舞うのが特徴です。所説ありますが、そのヒラヒラが手を合わせて祈る動作に似ているため「神様トンボ」とも呼ばれます。翅は黒く、雄の腹は光沢のあるブルーで鮮やかです。見かけたら幸運が訪れるかもしれませんね。



⑤ハグロトンボ

○花言葉は「愛の悲しみ」

●ハス池の隣に群生する④ミソハギ。鮮やかな紫色が目を引きまします。名前の由来は、襦みそぎに使われて、ハギに似ていることから。別名ボンバナ、精霊花しょうりょうはなとも呼ばれ、盆花としても良く使われます。愛の悲しみという花言葉は、そこから来ているようです。



④ミソハギ

○夏の野草もいろいろです

●管理棟の南側から古河公方館跡へ向かう坂道の入口で、小さな花を付けるヤブミョウガ。大ぶりでつやのある、ミョウガに似た葉が特徴です。公園の南側、⑦⑧の野草園では、釣り鐘型の花がかわいいホタルブクロが控えめに咲いています。園内の他の場所では、紫色のものもありますので探してみてください。オレンジの花を付けるオニユリは、丈が高いので良く目立ちます。その他、野草はたくさんありますので、てくてく探してみてください。



⑥ヤブミョウガ



⑦ホタルブクロ



⑧オニユリ

●夏に向かって動植物は生命力にあふれています。公園散策でその自然の力を感しましょう！

●暑い中にも「涼」を探しましょう。

まだまだ厳しい暑さが続いています。「涼」を探しつつ、史跡や文化財で歴史を感じてみましょう。

●おみたらせの清水に沿って・・・

●駐車場から①「おみたらせの清水」の石碑の脇を抜けて、せせらぎを横断。桃のアーチを抜けて中山台のガッチャンポンで水遊び。ブランコの木を過ぎたら右方向へ進みます。この辺は涼しい風の通り道。その先に見えてくるのは②「徳源院跡」です。5代古河公方足利義氏の息女・氏姫の法号から徳源院と称した寺の跡。義氏の遺骸の一部が葬られたと考えられ「古河公方足利義氏墓所」として県指定史跡となっています。

①おみたらせの清水



②徳源院跡 (県指定史跡)



【野草紹介】A.「ガマ」は、ソーセージのような部分が雌花、その上に伸びているのが雄花です。

A.ガマ



③ヒマラヤスギの園路



●ヒマラヤスギの木陰を抜けて・・・

●公園の西端を南北へ抜ける園路は、ヒマラヤスギの木陰で快適。途中、足元にはそろそろヤブランが見られますよ。



ヤブラン

●古河公方に思いを馳せて・・・

●イヌシデやコナラが主体の、周囲を沼に囲まれた④「公方様の森」は、夏は涼しく昆虫もたくさん。かつてこの地には、古河公方やその子孫の御座所、別荘として使われた「古河公方館（鴻巣御所）」があり、⑤「古河公方館跡」として県指定文化財となっています。



④公方様の森



⑤古河公方館跡 (県指定文化財)

●古河公方と氏姫のおはなし

・鎌倉公方足利成氏が1455年に古河へ移り古河城を本拠地としたことから、古河公方と呼ばれたことに始まります。5代義氏の死後、先に紹介した氏姫が9歳で家督を相続。その後、氏姫は豊臣秀吉の命により足利国朝と政略結婚をさせられるも、この御所に留まり続けました。2年後に国朝が病死し、その弟頼氏と再婚、義親が誕生。その頃、頼氏は加増を受けたことなどから、事実上喜連川藩が誕生しますが、氏姫は御所に留まり生涯を終えます。息子の義親も氏姫の死後、喜連川に入ることなく御所に留まりました。義親の息子尊信も家督を継ぐまで御所で暮らしたそうですから、氏姫の思いを受け継いでいたのかもしれませんがね。

・ちなみに、公園の牧の地口から出て左（西）へ約350mほど行くと、松月院公園があります。ここには義親の正室である松月院の墓塔とされる史跡「松月院御所塚」があり、ゆかりの寺院「松月院」があったと想定されています。



B.オミナエシ

【野草紹介】秋の七草の一つB.「オミナエシ」が咲いています。

●古民家のひみつ

●古民家で一休み。⑥「旧中山家」に一步入ると涼しく感じます。白壁は日光を反射し茅葺き屋根と土壁は温度と湿度を調節してくれるスグレモノ。1674年に建てられたそうですから、先人の知恵は偉大です！

⑥旧中山家 (県指定文化財)



●ほろほろと流れ落ちる

●余裕があったら森沿いの木陰⑦水鶏坂を下りて仙人池へ。ほろほろ滝から池へと流れ落ちる音が、涼しさを演出します。ちなみに「ほろほろ」とは、葉や花、涙などが静かにこぼれ落ちる様子のこと。池のそばの展望デッキの下、日陰のベンチに腰を下ろして、のんびり水の音に耳を傾けるのも良いかもしれませんね。



⑦仙人池 (ほろほろ滝)

●夏の公園は日陰を選んでゆったり。古河の歴史に思いを巡らせるのもいいですね。

●暑い夏が過ぎ、秋が近づいています。

暑さも落ち着き、散策しやすい季節になってきました。
公園には少しずつ秋の足音がきこえてきます。

●秋の風物詩「ススキ」もいろいろ

●お月見のお供えとしてもお馴染みのススキは、秋の風物詩ですね。公園南側の「①ススキの小径」は、広報古河でも度々紹介しているこの時期のおすすめスポット。同じススキでも、葉の縞模様が特徴的な「②タカノハススキ」は園芸種のススキで、その模様から英名は「Zebra Grass ゼブラグラス（シマウマ草）」といいます。同じ縞模様でも日本では鷹の羽、英語圏ではシマウマに見立てているのも面白いですね。

①ススキの小径



②タカノハススキ



【野草紹介】「A. キクイモ」は、菊に似た黄色の花に、塊茎（球状の地下茎）を付け、現在でも食用に利用されています。

A. キクイモ



●これも、あれも、ススキ？

●管理棟のすぐ西側、御所沼の角にある「③マツカサススキ」。名前にススキと付きますが、同じイネ科でもススキ属ではなく、アブラガヤ属の植物です。ススキの穂とは異なり、松笠（松ぼっくり）に似た小さな小穂の集まりを付けることが名前の由来となっています。公園にはこの1箇所しかなく、全国的にも減少傾向にある希少種です。

●コスモス畑にそびえる「④シロガネヨシ」は、別名西洋ススキやおばけススキとも呼ばれ、草丈は2-3mほどになります。英名の「パンパスグラス」は、原産地である南米の草原地帯「パンパ」の草という意味です。

③マツカサススキ



④シロガネヨシ



B. カツラ



一足早く黄色に黄葉する「B. カツラ」は駐車場ほか園内に。みたらしのような、甘じょっぱい香りも楽しんでください。

●こちら秋の代表「コスモス」

●秋の花の代表「コスモス」は、もともとキク科コスモス属の総称ですが、代表的な品種である「④オオハルシャギク」を一般的にコスモスと呼びます。歌にもあるように、色は薄紅がきれいですね。またこの④エリアには、コキアもたくさんありますので、紅葉が楽しみです。

●民家園には黄色の「⑥キバナコスモス」が目に見えやすいです。オオハルシャギクよりも暑さに強く、開花も若干早いため、より長い期間楽しめます。

④オオハルシャギク（コスモス）



⑥キバナコスモス



⑤コルチカム



●ひょっこり顔出すコルチカム

●ジェラテリア西側の丘やおみたらせの清水沿いに咲く「⑤コルチカム」。球根植物なので、休眠期間は葉が枯れてしましますが、9月中旬の花期になると、ひょっこりと顔を出します。花期には葉がなく、花が終わってから葉が出てきます。



●台風被害が出ています...

先日の台風通過にともない、公園でも被害が出ました。中でもハナモモは200本以上に傾きや倒木がありましたが、幸い数本を除いて起こすことができました。その他、今回ご紹介したコスモス等も倒れている場合がありますので、ご了承ください。

●特に暑かった今年の夏。疲れが出るこの季節は、秋の公園散策でリフレッシュしましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋の公園でアートさがし散歩

芸術の秋。日中は運動に最適な気候です。散歩で体を動かしながら、公園のアートに触れてみましょう。

●雪華園とジェラテリア

●公園の中心に位置する①雪華園は「乾坤八相の庭」と呼ばれ、人と自然のからみあいから生成される風景を表し、ひいては公園全体を象徴する庭園です。片面がコンクリート、消波ブロックで覆われた「片岡崩しの丘」や、古井戸、家の基礎、屋根瓦にススキなどが生え、荒れた雰囲気演出する「廃墟の荒れ庭」などで構成され、一見すると無造作で、意味がないようにも思えますが、とても計算された空間となっています。雪華園を含む公園の設計監修は、東京工業大学名誉教授である中村良夫先生※によるものです。※風景、土木分野での受賞歴の他、H29年に瑞宝中綬章を受章。

●雪華園の南②ジェラテリア。そのガラス張りの建物は、風景と溶け込むようにデザインされており、また鏡のような耐震壁には、景色が幾重にも屈折し、乾坤八相の庭の一景となります。この建物は、建築家妹島和世氏※によって設計されました。

※国内外で多くの建築を手掛ける建築家。西沢立衛氏とのユニット「SANAA」では、建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー賞」を受賞。

①雪華園



②ジェラテリア



③天神橋



●何気ない風景にもアートが

●公園と言えば、季節の草花や樹木が目を楽ませてくれますが、広い視点で見てください。昔ながらの自然の中に、③天神橋④展望デッキなど、近代的な建造物があるのが公方公園の特徴の一つです。雪華園の欄でも触れましたが、文明による人間の自然への侵入などを表現しています。「あの橋は自然の風景に合わないのでは？」というご意見もいただくことがありますが、「なるほどそういうことか」とご理解いただければと思います。

④展望デッキ



●古河ゆかりの文学にふれる

●明治25年に東京生まれ、古河で育った小説家「若杉鳥子」と、作家・歌人の長塚節がお互いを詠った歌が⑤に2首ずつ刻まれています。二人の切ない物語については、直接歌碑の解説をお読みいただければと思います。※古河市横山町にある、はなももプラザ前にも鳥子の作品「帰郷」の一節を刻んだ「若杉鳥子文学碑」があります。

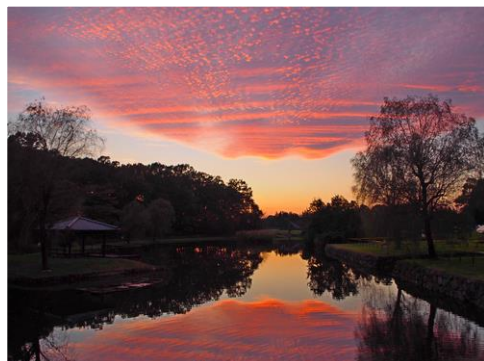


A.チカラシバ【野草紹介】「チカラシバ」は、A他公園にたくさん生えている雑草で、エノコログサ(猫じゃらし)のオバケのような、大きいブラシ状の穂が特徴です。しっかりした根で引き抜くのに力があることからその名がついています。

●一瞬の絶景アートを切り取る

●この季節ならではの、夕暮れ、日の落ちる方角、空や雲の状態など、条件が合えば絶景に出会えます。スマホカメラの進化で、綺麗な写真が気軽にとれるようになりました。公園の景色をアートとして、皆さん自身が発見、写真に収めるのも楽しいですね。公方公園でいい写真が撮れれば、たくさんの「いいね！」間違いなしですよ。

▶平成29年11月1日の夕方17時前後に、管理棟西側で撮影した1枚です。



●実はとってもアートな公方公園。てくてく散策しながら、魅力を再発見してみてください！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●季節は晩秋、そして冬へ・・・

徐々に木々が色づき、公園も落ち着いたあるシックな装いになってきました。のんびり季節を楽しみましょう。

●紅葉の代表「イロハモミジ」

●紅葉といえば、やはり「イロハモミジ」ですね。公園では目洗い弁天池の周辺や、雪華園など、あちこちに点在しています。同じモミジでも日当たりなど条件によって紅葉の具合に差があるので、色味の違いも楽しめますね。



①イロハモミジ

●モミジじゃないよ「モミジバフウ」

●モミジのような葉をもつ「モミジバフウ」は、モミジとは違いご覧のような立ち姿。「フウ」という樹木の一種です。漢字で「楓」と書くため、ややこしいですが、モミジとは異なります。フウはトゲトゲの実を付けるのも特徴です。近くで見てください。



②モミジバフウ



③ユリノキ

●ユリノキを見上げて

●駐車場に高くそびえ立つ「ユリノキ」。紅葉、落葉が進んでいますが、見上げてみると先のとがった実を付けています。たくさんの種子の集まりで、徐々に色づき、花の様に開いた後、周辺に散布されます。ときどき見上げて、変化を見るのも楽しいですね



●見た目も素敵な松の冬支度

●雪華園ほか、園内の松は、この時期になると「こも巻き」を行います。害虫の「マツカレハ」を駆除するために江戸時代から行われてきた伝統的な手法ですが、現在はあまり効果がないとされています。「雪吊」は、雪の重さから枝を守る手法です。金沢の兼六園が有名ですね。古河公方公園では、どちらも本来の目的より、美観目的の意味合いで実施しています。あまり近くでは見かけませんのでこの時期の風物詩として、楽しんでいただければと思います。



④こも巻き



④雪吊



A. ツツブキ

【野草紹介】管理棟脇にひっそりと咲くツツブキ。艶のあるフキのような葉が特徴の多年草です。日陰でも良く育ちます。



B. チャノキ

【知っていますか？お茶の花】

この時期、茶畑を覗くとツバキを一回り小さくしたような白い花が咲いています。「チャノキ（茶ノ木）」は、ツバキ科ツバキ属なので、花の形や咲く時期が似ているんですね。

●探してみよういろんな実

●秋から冬にかけては、たくさんの植物が実を付けています。赤くてキレイな「ハナミズキ」の実、下にもたくさん落ちています。「モッコク」の実は淡い赤色の果皮が破れて、中から赤い種が顔を出します。樹木以外にも足元に目をやると、みどりのモジャモジャ「ジャノヒゲ」の中には、鮮やかなブルーの実が付いていますよ。

⑤ハナミズキ

⑥モッコク

⑦ジャノヒゲ

(リュウノヒゲ)

【昆虫の不思議・・・カマキリの卵鞘】

冬になると低木に見かけるカマキリの卵。全体をまとめて卵鞘といい、たくさんの空気を含んだ断熱材のようになっています。カマキリはその年の積雪量を予想して、卵鞘が埋もれないように、産み付ける位置（高さ）を決めているそうですから、不思議ですね。

●晩秋から冬の落ち着いた中にも、公園の自然にはいろんな発見がありますね。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●冬を迎える静かな公園に発見いろいろ。

木々の葉も落ちてスッキリとした公方様の森には、鳥たちの鳴き声が響き渡ります。てくてくお散歩しながら、のんびりバードウォッチングも良いですね。

○ 越冬のためにやってくるこんな鳥、あんな鳥

■寒い冬は鳥たちも、いつもの生活圏から暖かいところへ南下し、冬を越します。地面をピョンピョン飛び跳ねては餌を探す姿が特徴的な「ツグミ」は公園以外でも普通に見かける鳥です。



ツグミ



アカハラ

■同じツグミ属の「アカハラ」。名前の由来はズバリ「赤い腹」ですが、実際はオレンジ色。大きさはツグミと同じで24 cmぐらいです。公園に来ていることは間違いありませんが、探さないとなかなか見かけないかもしれません。

■つづいて赤い腹が特徴的なこちらはアカハラ・・・ではなく、「ベニマシコ」と言います。ややこしいですね(笑)。ツグミより一回り小さく15 cmぐらいの大きさです。紅猿子と書き、猿に似て顔が赤いことが名前の由来だそうです。

滋賀県では準絶滅危惧に指定されており、数は減少傾向にあるようです。 ※アカハラ、ベニマシコ写真提供：古河市小川さん



ベニマシコ

●ウソのようなホントの鳥

この「ウソ」という名前の鳥もこの時期に見かける鳥です。口笛のような鳴き声から、口笛を意味する古語「ウソ」の名がついたそうですよ。



ウソ



アカゲラ

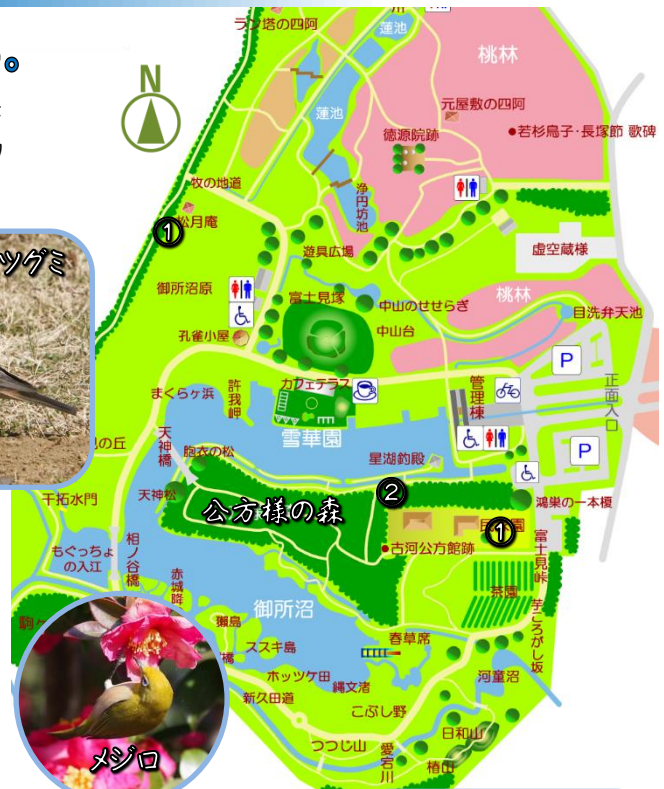
○ 実は一年中いるんです(留鳥)

■コンコンと木をつついて巣作りをする「キツツキ科」の鳥。公園にもその一種「アカゲラ」「アオゲラ」などが生息しています。木をつつくときの強い衝撃を上手に吸収できる体の仕組みなんだそうですよ。



カワセミ

■古河市の鳥でもあり、その鮮やかな青色が人気の「カワセミ」は、静かなこの時期に御所沼の水面をスーッと飛んでいく姿をしばしば見かけます。やはりその美しさは別格ですね。



○ 冬でも花が見たい！

① サザンカ

■童謡「たきび」に歌われている「サザンカ」が民家園他で見られます。よく似た「ツバキ」との簡単な見分け方は、花びらが散っていればサザンカ、花が丸ごとポトッと落ちていればツバキです。ちなみに、午前中はよく「メジロ」が蜜を吸いに来ていますよ。



○ 草じゃなくて木なんです



② ヤブコウジ

■管理棟側から森を通して民家園への登り口、左側足元にたくさん生えている「ヤブコウジ」は、小さくて草のようですが、常緑の小低木で、今の時期は赤い実を付けています。別名「ジウリョウ（十両）」とも呼ばれ、センリョウ（千両）やマンリョウ（万両）、カラタチバナ（百両）と共に正月の縁起物とされます。園芸植物として江戸時代には多くの品種が作られ、明治から大正にかけて大流行したそうです。中には現在の価値で1000万円するものもあり、投機の対象にもなったそうです。また落語「寿限無」の一節「やぶらこうじのぶらこうじ」は、このヤブコウジのこととされています。

●ちょっと寂しい冬の公園も楽しみ方はいろいろです。てくてく情報、次号もお楽しみに！